

天真正伝香取神道流

成田市

大竹利典氏

「兵法は平法なり」

戦わずして勝つことができれば

それが最高です

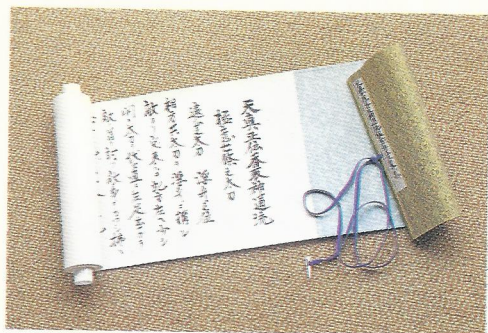
敵意は敵意を生み

和は和をもたらしめます

それには一撃必殺の技を

鍛えあげ身につけてこそ

その実現が可能なのです



ちばに生きる





●千葉県指定無形文化財、天真正伝香取神道流師範・大竹利典氏。成田市在住

略歴 大正15年3月10日、香取郡大栄町に出生。もと秋葉姓、昭和23年結婚して大竹姓になる。16歳の時、林弥左衛門氏に入門。昭和35年、日本武道として最初の無形文化財に指定さる。昭和54年4月文化庁より、登録審査委員に任命さる。

天真正伝香取神道流というのは、流祖・飯篠長威齋家直が開いた武道。

飯篠家直は、今から約600年前（室町時代初期・元中4年・1387年）、香取郡多古町飯笹に生まれ、壮年の頃、足利義政に仕え、数度の合戦に出陣して一度も敗れたことがなかったという。その家直が60歳の折、武神として名高い香取神宮にこもり、1千日の大願をたて齋戒沐浴、修業の末、数百カ条に及ぶ武道の形を工夫した。そこでその武道を天真正伝香取神道流と名付け、多くの門弟を仕立て102歳で世を去った。

その後、飯篠家の代々の長男は、どんな高禄でも大名に仕えることなく、この流派をうけつぎ、現在の飯篠快貞氏は宗家の20代目に当る。その間、この流派の門流には、有名な上泉伊勢守信綱、塚原卜伝、あるいは竹中半兵衛などの名もある。

この神道流は、居合術を始め、劍、棒、槍、薙刀、柔、手裏劍、忍、戦術、築城に至るまでの総合武道で、不動知、神妙劍、燕返しなどの極秘劍もある。入門の際は血判を押すという厳しい方法を現在でもとっている。

大竹利典氏が、免許皆伝の劍士・林弥左衛門氏の所に入門したのは16歳の時だった。

入門の動機をお話ください。

「私の幼少年期は、国のため大君のため喜んで死ぬという教育を受け、そのようにするものと思っていました。

昭和16年大東亜戦争が始まり、友達が多くが志願兵になって戦線に出てゆきました。私も志願したかったのですが、私は6人兄弟の末っ子で、母が40歳の時の子供でしたから、年老いた両親を置いて出てゆくわけにいかなくなりました。志願したい気持を押えて家業の手伝いをしていた。（家業は農業で、競争馬の育成をしていた）。そういう状況の中で、本当に国のために笑って死ぬるものだろうかと煩悶し、そういう心境に到達したくて、林先生の所に入門しました」

——どんな稽古をされましたか？

「入門当時は、昼、仕事をし、夜、稽古をつけてもらいました。その頃、林先生の所には道場がありませんでしたので、稽古は外で、しかもはだしでやりました。毎晩欠かさず、冬は霜や雪の上で続けました」

——徴兵で入隊されたのですか。

「20歳の時、入隊しましたが、2カ月後、終戦になり（終戦は昭和20年8月）ました」

——何歳で免許皆伝を受けられましたか？

「この神道流では、どんなに腕が上達しても42歳にならないと免許皆伝を受けられません。技と人格が揃わなくてはいけないのです。私の場合は35歳の時に、林先生から「君が42歳になる前に、もし私が死んでも、42歳の時に極意皆伝を名のり、この流派の要になってくれ」と言われ、総伝してもらいました。総伝とは、目録、免許、



極意の巻物を総称した
 ものです」

（林先生は昭和39年、
 82歳で亡くなられまし
 た）

——この道40年ですね。
 林先生を通して神道流
 をどう学ばれましたか？

「大きな意味での人間形成の精神を学びました。武道は
 強くなくてはいけないが、その強さを表面に現わしては
 いけない。武道家が謙譲の精神を失ったら、その強さは
 ただの暴力になってしまう。火の玉のような強さを人間
 的な情をもって包みこんでいなければならない、と言わ
 れ、また「敵に勝つものを上とし、敵を討つものは之に
 次ぐ」とも教えられました」

——昭和35年、無形文化財に指定されていますね。

「そうです。日本武道では最初の指定と聞いています」
 ——先生のご使命は？

「神道流は日本一の武道だから後世まで正しく伝えてほ
 しい、と林先生に言われているので、それを守り、日本
 の伝統的武道が修業できる喜びを、今の若い人々に教え
 たい。また、トンボ伝書と呼ばれる極意書の型を伝える
 と共に、神道流歴代の墓を守ってゆくつもりです」

——今後の希望は？

「日本の知識階級の諸先生に、本当の武道の在り方を理
 解していただき、それを伝えることに力を貸していただ
 きたいのが希望です。日本の武道は、かなり間違っ
 て伝えられているように思う。むやみに殺し合いをするよ
 うな剣豪は人殺しにすぎません。戦って勝つのは本当の勝
 利ではなく、武器を使わずに勝つのが本当の勝利です。
 強いだけが剣の道ではありません。豊かな人間性を養っ
 てゆくのが、真の意味での剣の道。強さだけが喧伝され
 ている今の武道を正しい方向に導いてゆきたいのです」
 ——後継者は？

「2人の息子が小さい時から私の姿を見て育ち、神道流
 のことも、のみこんでいますので、この2人に継がせたい
 と思っています」

